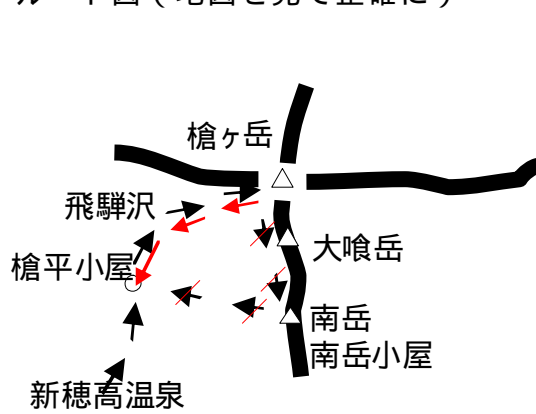


7 月度 <small>例会</small> 山行報告書 <small>個人</small>		報告	大矢康裕	参加 メンバー	CL:大矢康裕、浩貴
		報告	8/8		
山 域	北アルプス	山行日	07年 7月21日(土) ~		
山 名	槍ヶ岳		07年 7月23日(月)		

山 行 目	テント山行に慣れる	コースタイム (天候: 天気図記号)
-------	-----------	--------------------

配布先
集会:12
山行:1
リーダー
原紙:集
会担当者

ルート図 (地図を見て正確に)



穂高岳、槍ヶ岳

7/21 曇 時々小雨	7:15 中沢
7:00 自宅発	7:25
11:40 新穂高温泉	8:15 2400m
11:55 出発	8:25
12:25 一本	9:15 2700m
12:40	9:25
13:30 穂高平小屋	10:15 2900m
13:40	10:25
14:30 白出沢出合	11:00 槍ヶ岳山荘
14:45	
15:30 チビ沢	7/23 雨
15:40	4:30 起床
16:10 滝谷出合	6:00 出発
16:20 一本	14:15 新穂高温泉
16:30	19:50 自宅着
17:15 槍平小屋着	
7/22 曇 雨	
5:00 起床	

山行報告 昨年 から計画していた槍ヶ岳山行を、いよいよ実行に移す。長男が人ごみと煙草の煙を嫌うので、ルートは上高地を避けて新穂高温泉から飛驒沢を詰めることにする。通常、前夜発1泊2日のところを、テントデビューの長男のため余裕を持って2泊3日とする。7/21 高山市街地で少し道に迷って、新穂高温泉に着いたのはもう昼近く、無料駐車場に止めて出発。時々小雨が舞うので、カッパを着るが暑い。長男と色々喋りながら歩く。テントに加えて、予備水3リットルが肩にずっしり来るが、猿投山でのポッカトレの成果か、足取りは軽い。奥穂高岳への登山道分岐の白出沢出合までは、歩きやすい林道が続く。その先は、車が通れない登山道。小雨で濡れて滑りやすい石の道を行くと、岳人の聖地、滝谷の出合に辿り着く。雨のため水量が多く、ゴウゴウと飛沫を上げて流れる沢に架かる橋を渡る。私は平気の平左だが、長男はびびったようだ。程なくして、槍平小屋に到着、テントを張る。一汗かいた後のビールは堪えられず、下界から担いだ 500ml 缶を2本とも空けてしまった。7/22 朝起きると、ガスは切れている。晴れることを期待して登り始める。左手に、残雪の残る抜戸岳~笠ヶ岳の山腹が見えるが、稜線は雲の中。段々ガスってきて眺望がきかないが、樹林帯を抜けるとハクサンイチゲ、イワカガミ等の高山植物の間を登る、とても気持ちのいいルートだ。例年より残雪が多く、コースは少し雪渓を横切る。最後一踏ん張り、テント場を通過して槍ヶ岳山荘着。まだ岩が濡れて

いなかったので行けると判断して、槍ヶ岳頂上を目指す。およそ頂上までの距離の 1/4 のところで、長男が恐怖心のあまり、岩に上半身がへばりつき、進退窮まって動けなくなってしまったので、安全第一として引返すことにする。やがて降ってきた雨の音を聞きながら、美味しいビール・焼酎を飲みつつ、長男と日頃できない四方山話で楽しく時間を過ごす。7/23 ゆっくりと新穂高温泉に下り、露天風呂にて3日間の汗を流す。

リーダー所見 手取り足取り注意して、上体を岩から離すように言っても、身体が言うことをきかないらしいので、頂上は無理と判断した。大変残念だが、基本的な3点確保の姿勢ができていない人間を担ぎ上げて、下山時に雨で岩が濡れたらスリップ必須、一巻の終わりなので仕方がない。初めてのテント山行も含めて、本人にとって良い経験となったようだ。

フリースペース
山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に
雲が湧き、残雪残る飛驒沢



確認
(リーダー)

大

07/07/24

矢

作成
(報告者)

大

07/07/24

矢